

令和元年度 第1回 対馬市総合教育会議会議録	
1. 開会日時	令和元年7月26日(金) 午後4時00分
2. 場 所	対馬市役所 1階会議室
3. 出席委員	比田勝尚喜市長、永留和弘教育長、吉野達實教育委員、 佐伯康弘教育委員、一宮恵津子教育委員
4. 出席者	阿比留教育部長、八島次長、庄司課長、川辺課長、吉野主幹、扇課長 補佐 有江総務部長、大塔係長
5. 会議書記	大塔係長
6. 閉会日時	令和元年7月26日(金) 午後5時40分
7. 議 事	
日程第1	市長挨拶
日程第2	議題1：対馬市教育支援センターとの連携について
日程第3	議題2：離島留学生(島っこ留学)制度の現状・課題と今後の取組について
日程第4	議題3：その他
大塔係長	<p>皆様こんにちは。少し時間早いようですが、皆様おそろいですので、ただいまから始めさせていただきますと思います。私は総務課で総務教育会議の担当しております大塔といたします。よろしくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、市長の比田勝が御挨拶を申し上げます。</p>
比田勝市長	<p>皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、第1回の対馬市総合教育会議に御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。</p> <p>委員の皆さまには、日頃から対馬市の教育行政の発展に向け、日々御尽力をいただいていることに対しまして、心から厚くお礼を申し上げます。</p> <p>対馬市は、この18日から20日にかけて約400ミリを超えるような、まれに見る豪雨となりました。床上浸水が5棟となり、道路等</p>

も6カ所不通となった次第でございます。私も今日の午前中は上県そして棧原というふうには床上浸水をされた市民の皆様のところに対馬市からのお見舞い等を持ってお見舞いに行った次第でございます。そういう中、先日は九州北部地域が梅雨明けしたというような発表がなされたところではございますけれども、これからがいよいよ夏の本番になるのかなというふうに思っております。

そういう中で、特に前回の総合教育会議の議題にさせていただきました、学校施設へのエアコンの設置の状況でございますけれども、鶏鳴幼稚園につきましては、夏休み中に完成をする見込みとなつてるところでございます。小中学校につきましては、ただいま設計が完了し、今年度末には設置工事が完了する見込みとなつてるところでございます。

今年の夏には間に合わせることはできませんでしたが、設置の間は、各学校におきまして児童生徒の体調管理、そしてまた熱中症等には万全の対策をとりながら、取り組んでいきたいと考えております。

本日の議題は、対馬市教育支援センターとの連携と離島留学制度の現状と課題、そして、今後の取り組みについての2点でございます。

教育支援センターにつきましては、皆様既に御存じのとおり、学校生活に適応できない不登校児童生徒の相談や学習指導など長年、ボランティアで運営をいただいておりますフリースペース「みちしるべ」を今年度から教育支援センターとして市が運営をしているところでございます。この教育センターと学校が協力して、連携して児童生徒を支援することによりまして早期の学校生活への復帰へつなげることを目的としておりますので、このことにつきましても、きょう皆様と意見を交わしたいと考えているところでございます。

いずれの議題にいたしましても、委員の皆様活発な御意見を賜り、今後の教育行政に生かしてまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いをいたします。

大塔係長

ありがとうございました。これからは、着座のまま進行をさせていただきます。

それでは、次第の3の議題に移ります。

初めに、対馬市教育支援センターとの連携についてから進めさせていただきます。対馬市教育支援センターとの連携について、教育委員会事務局から御説明をよろしくお願ひします。

吉野主幹

学校教育課の吉野と申します。よろしくお願ひします。

対馬市教育支援センターが今年度から新しくスタートしておりますので、経緯などをまず説明させていただきたいと思います。資料は1ページをご覧ください。

まず、平成16年度に元教員を中心に有志が集まり、フリースペース「みちしるべ」が設立されました。これは対馬市の不登校の子どもたちの居場所として、4年目頃に少し人数がふえてきて、手狭でありましたので、日吉にあります市所有の一軒家のほうがクリエイティブということで、そちらに移りました。

平成22年度からは、適応指導教室として位置づけをしまして、児童生徒が学校への復帰を目的として同施設を利用する場合は出席扱いをするというような連携を図ってきており、今年度4月から対馬市教育支援センターとしてスタートしております。

不登校児童生徒の現状でありますけれども、対馬市の状況を見ますと平成23年度が小中合わせて41名と非常に多い状況でありました。25年度には21名まで減りましたが、その後、少しずつ増加を辿っており、平成30年度は小中合わせまして43人となっております。そういう状況も踏まえまして、目的のところですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条、これは簡単に言いますと、教育機関の設置についてうたっております。及び、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律、これは簡単に言いますと、地方公共団体に不登校児童生徒についても教育機会の確保に関する施策をするよううたっております。これらに基づいて学校生活に適応できない不登校の状態、またはその傾向にある児童生徒に対して学校適応、それから復帰を目指した指導、支援を行うという目的でスタートしております。

組織としましては、まずセンター長、これは学校教育課長が兼務をしております。指導員は、運営の実務を行っておりますが、現在元小学校校長が指導員として務めております。

それから、支援者及び講師としまして、各講座において指導援助を行う方が現在25名登録をいただいております。どんな講座をしているか等については、指導及び援助内容がありますが、多岐にわたる講座等を提供いただいております。

それから、ボランティアの補助として、フリースペースみちしるべの卒業生が参加したりもしており、入所者への指導日及び指導時間につきましては、月水金の9時から3時を充てております。

今後の対応ですけれども、現在定期的に通っている入所者は4名にな

<p>大塔係長</p>	<p>ります。小学生が1名、中学生が3名、これは、昨年度8名の児童生徒が通っておりましたが、そのうち4名が週3でしたので、去年通っていた4名が現在もそのまま通っているところであります。電話や来庁により他の児童生徒及び保護者の相談業務にも当たっております。今後は、指導員が各学校を訪問して、困り感を抱えている子どもたちや先生方も含めまして、劇的に支援していくためにはどうしたらいいかというところも相談しながら進めていくことにしております。</p> <p>以上、現在の概要についてです。</p>
<p>比田勝市長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、対馬市教育支援センターの連携について意見交換をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>この平成30年度の不登校の現状とって小中合わせて43名の児童生徒がいるということなんですけども、現在教育支援センターに4名通っているということで、約1割程度になるんでしょうか。この現状と申しますか、人数が少ない原因はどういったことが考えられるんでしょうか。</p>
<p>比田勝市長</p>	<p>それは幾つか原因があると思いますが、まず、今までは民間がやっていたところでありましたが、今年度から対馬市が運営をしていくということで、また周知の仕方が違ってくると思います。まず学校に対しての周知を図る必要があると思っております。学校での周知を図るとともに、それがまた保護者へも伝わっていくと思います。その周知と、あともう1つは市が広いので、巖原に今構えておりますが、上のほうや豊玉近辺のほうは気軽に通えるかということ、そういう状況でもないということ、不登校の部分にとっては、この適応指導教室に出ることもまず1つの大きな壁になっているという部分があるので、そこを学校との連携を図りながら、学校に戻る一歩手前の場所して周知しながら運営していければなどは感じております。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>例えばですけども、ここでは月水金ということで今この支援センターを開いてあるみたいですけども、例えば、この以外の火曜日、木曜日を上のほう、どこかで開くとしたとすれば、そこにやはり通う子どもは考えられるんでしょうか。</p> <p>適応指導教室の性格からして、1つの居所といいますか、安心できる空間というか場所があるんです。例えば、どっかの庁舎なりを1室を借りてそこだけ使うというのは、やっぱり来る子どもにとっては居場所になかなかならないので、やはりまず子どもたちの居場所にするためには、この安心できる場所が必要になってきます。そう考えると</p>

佐伯委員	<p>今、書いております。日吉の家などは居場所づくりの場所として使えるので、そういう形が一番望ましいかなとは思っております。</p> <p>私のほうからも1つ、不登校の定義が年30日以上という、恐らくこの間まで中学校の子どもがいたんで、話を聞いていると、先生方も本当努力して、何とか学校に来てもらって、豊玉中学校だったら、ハード教室といって、その専門の部屋で、授業には出ないけど学校にはちゃんと来れるようにというクッション的な役割の教室があったりとかするんです。一人一人出てきている日数等も恐らくばらつきがあるのではないかということを考えたりするんです。30日以上はこの43名ということだと思うんです。なので、もう少し出てきている日数がある程度わかるようなものがあるとより現状が把握しやすいのではと感じています。</p>
吉野主幹	<p>対馬市教育委員会には、不登校の児童生徒について調査行った報告をいただいています。こちらの報告は、1学期のうちで7日間以上欠席する、もしくはその月の半分以上欠席した場合、それから、日数はありませんが不登校傾向が感じられる児童生徒について報告を寄せられております。ですから、この文部科学省の定義と市の調査というのはちょっと差があるんですが、ちなみに今具体的な状況ということでしたので、今年度の6月の状況で言いますと、小学校で今言いました連続7日以上欠席で、半分の日数以上欠席としている児童が5名、不登校傾向が3名、合わせて8名、中学校では連続7日以上、半分以上が21名、残り8名が不登校傾向で、合わせて29名。全体で合わせますと、不登校と言われる連続7日以上、半分日数以上が小中合わせて26名、不登校傾向が9名なんですが、合計37名ということで、こういった数はありますけど、具体的には数を見て把握している状況です。</p>
比田勝市長	<p>ここはなかなか難しいと思うんですけども、やはり社会的な環境に適応できなくてこのような形になるのか、家庭の中でなるのか、そこら辺というのはどうなのでしょう。それによっていろんな対策もまた打ちやすくなるんじゃないかなと思うんですけど。</p>
佐伯委員	<p>実際、私の娘も教室で過ごす時間はかなりあったんです。ただ、目標が定まったりすると積極的に授業に出たりとか、先ほどおっしゃられていましたけど、まずは学校の中の居場所として、すごく機能していて、そこにいつもいてくださるのは、以前の教育委員長をされてあった村井先生が今先生として入っていただいて、子どもたちとにかく、勉強、授業なんかいいから、とにかく学校出てきたら、ここに来</p>

比田勝市長	<p>ていいよ、授業中でも何でもここに来ていいよという形で居場所をつくるということをしかりしていただいていたんで、何とかその後、引きこもりになったりすることなく、高校受験もできたし、一時やっぱりそういうふう人間関係とかでやっぱり苦労している子どもがいたとしても、そこでワンクッション置いて視野を変えるとまたできたという話をたくさん聞いているので、この中でそういったところはとても大事かなと。それよりももうちょっと苦労したのは子どもたちが学校に出てこれていないというふうにおっしゃられるように、気軽な居場所として、家に居てもつまらんけん、あそこに行っとうるかとうぐらいの居場所としてでも、常時行けるような場所があるというのは、子どもたちにとっては安心かなというふうに思います。</p>
比田勝市長	<p>私も、最初にお聞きしたように、少しでも多くの児童生徒がこのような施設を利用するというのが目標だというふうに思っておりますので、行政側として支援するには、どうしたところに支援をしていけば、もう少し子どもたちが集まりやすいのかなと、そこら辺を探ればなというふうに思います。</p>
佐伯委員	<p>本当、できれば常設じゃないけど、上に1カ所できるのが一番いいでしょうけど、さまざまな問題があると思います。</p> <p>先生方が各学校を回ってくださるということもとても素晴らしいことなので、ぜひそこはスケジュールを調節していただければと思います。ちなみに、このスケジュール的なことがある程度決まってるんでしょうか。</p>
吉野主幹	<p>把握していません。</p>
比田勝市長	<p>子どもたちだけじゃなくて、今、市役所の職員の中にも、子どもと一緒にじゃないですけど、やはり業務的に心を痛めて休職している職員が数人いますから。同じとは言えないでしょうけども。</p>
佐伯委員	<p>そうですね。どこの職場でそういうことは起こり得るし、誰でもそういうふうになってしまうことがあるから。私たちの会社、郵便局にしても、1か月以上休んだときには、支援会議を熊本で開催してもらって、専門のお医者さんとかと一緒に復帰を支援していくとか、ずっと毎月状況を報告したり、やっぱり子どもたちもそういうものが必要なんでしょうね。今はソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとか、数年前から見るとかなり充実をしてきているので、私も幸せなんじゃないかなと思う部分もあるんですけど、まだまだですね。</p>
吉野委員	<p>いいか悪いか、昔に比べてかなり過干渉ぎみな部分もあって、自立心がちょっと足りなというか、そういう逆に戻たたいもうちょっと</p>

<p>佐伯委員 吉野主幹</p>	<p>頑張れと言いたいぐらい。心が弱い人が増えてきたような感じです。支援が悪いとは言いませんけど、昔はそういう制度がなく、元気がよかったような気がします。</p> <p>やっぱりいろんな原因を分析とかをやっていらっしゃるんですか。</p> <p>全国的な分でございますと、子どもは行きたいと思っても行けないというタイプがやっぱり多くて、他の児童生徒との関係など内面的なことあるので、必ずしもそうとは言えませんが、いわゆる人間関係とか、情緒不安を抱えてという原因は全体の30%程度。あと中学校になってくると、ちょっと増えてくるということになります。対馬市の状況で考えると、この子はこれだからこれだという原因ははっきりしないというのと、原因を探ることは労力を使っても不登校のかかわりとしては得策ではなくて、原因掘りばかりして、違うところに行ってしまうこともあります。ただ、そういういわゆる原因というところには、情緒混乱とか多分人間関係などで悩んでいるとかいう子どもたちが多いというのは事実ですけれども、家庭の養育力がなくて、子どもが学校に行く気力もない、この辺はやっぱり連携をとりながらということもあると思います。それから、いわゆる発達障害を持っているけど、そこになかなかわかりにくい発達障害もあって、本人は困りながら連れていく、この子はさぼっているんだとか、がんばりが足りないという目で苦しめてしまっ行って行けないという場合もあり、そんな見極めも学校はしていかなければと思いますが、原因については種々さまざまです。</p>
<p>佐伯委員</p>	<p>先日、社会福祉協議会の話聞いていましたが、対馬にはまだ子ども食堂がありません。ボランティアでぜひ自分たちも立ち上がってやりたいんだけど、まだ一歩が踏み出せないかなということ、先ほどおっしゃったように、やっぱり年齢層じゃないんですけれども、なかなか御飯もつくってあげられなくて、親も苦しむ、子どもも苦しむところです。食事の問題は、本当に大きい。多面的な要素でやっぱり見ていく中で、例えば、移動子ども食堂でも試しにやるというのはすごくいいことなのかなと思いました。</p>
<p>比田勝市長 佐伯委員 比田勝市長</p>	<p>やはり、子ども食堂の必要性はあるんですか。</p> <p>わからないですが、やってみないとわからないと思います。</p> <p>ましてや、都市部みたいにまとまっているなら、やりやすくもありますけど、対馬みたいに南北80キロ近くあって、各集落までかなり時間がかかる中、例えば巖原地区とか、鶏知地区でやるとしても、集まってくる生徒がどのくらいいるかですね。</p>

佐伯委員 比田勝市長	<p>やっても、結局やってもこれないとかあるかもしれない。</p> <p>ところで、先ほど説明の中で、このみちしるべに通いながら高校の受験をしたという子どもがいたんですね。授業日数などは何かはっきり決まっているんですか。</p>
吉野主幹	<p>まず市が運営している適応指導教室については、指導要録上は出席扱いにしていくことになっています。あと民間に通う場合とかについては幾つか条件があって、1つは、学校ときちんと連絡が取れているかどうか。それから、市教委等の判断でこの子が行くにふさわしい場所であるか、教育的な配慮があってそういう指導ができている場所であるかというところをクリアすれば、出席扱いにしているので、この教室に行けば指導要録上は出席というかたちになります。</p>
永留教育長	<p>あと、高校受験はありますので、合格するだけの力があって、例えば不登校の状況であっても高校に行く意思があって、何らかの理由で不登校になった。そうしたら学校でその子どもに対する特別の陳情書みたいなものをつくるんです。それを高校が認めてくれれば不登校であっても入れます。</p> <p>教育支援センターの1つの目的が学校復帰もありますけれども、教育の機会を、勉強する場所を提供しようと。不登校によって学校行けない子どもたちの勉強の場でもある。そうしたらそこから当然勉強すれば力はついていきますので、高校受験も可能になる。対馬市教育支援センターはまだそこまで行っていませんけれど、もうちょっと子どもたちが気持ちをリラックスさせながらここに詰め所ができて、勉強してみようかという気持ちになってくれればいいなと思っています。まだ開設したばかりで、まだそこまでじゃないかということです。</p> <p>不登校というのは、原因がわからない。原因とか理由とかがわからないと、不登校になってしまったら、なかなかつかめない。個人的に何人か対応したことはありますけれども、やっぱり、1回や2回やったぐらいで苦しむ気持ちを相手にも伝えれるでしょうか。担任とか、親しい先生たちを中心に対応してもらうんですけど、なかなか原因はわからないので対策の立てようがなく次の取り組みに行けない。というのが学校の現状なんです。</p>
吉野委員	<p>いじめによるものとか、勉強嫌いとか、そういうものの不登校はないですか。</p>
永留教育長	<p>勉強がわからず学校行きたくないといえば、じゃあ、学校で特別にこういうふうな学び方ができるよって、中学校であれば先生方がかか</p>

<p>吉野委員 永留教育長</p>	<p>わってくださっていいですけれども、そういう原因がはっきりしないのが多いです。</p> <p>いじめは表に出てこない。</p> <p>いじめは子どもたちも言わないんです。いじめられたから行きたくないというのは例えば小学生低学年なら言うかもしれんけれども、中学生あたりになったら言いません。</p>
<p>佐伯委員</p>	<p>聞いても親も先生に言うべきラインまで行くのかどうかを見守ろうとすれば、するとそこはやっぱり考えますよ。</p>
<p>吉野委員</p>	<p>単純な原因じゃないとは思いますが。30日以上行かないというのは、よっぽどなんだけどもね。私ら素人だけど、担任の先生はわからないかなと思うときもあるんだけど。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>入居者4名は、フリースペースには保護者が送ってきたんですね。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>詳しくは聞いていないんですが、距離があるから保護者が送ってきてます。3名は。1名ははっきり言って、基本的に送らないと街中を歩いて元気に歩いてくるのは難しいかなと思います。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>来ている3名は、差し支えなければどこの地区とかわかりますか。というのは、さらに充実させるための指導員が大事になってきますよね。何かちょっと教えてほしい。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>上のほうが1名、4名のうち上から通っている子が1名。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>豊玉以北ですか。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>それで、中から来てる子どもが2名、下のほうが1名。送ってあげると思います。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>生徒さんがそこにいる間は保護者の方もやっぱりそこにいらっしゃる。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>そこにいるか、どこかで過ごしているのか。そこは子どもによって違って来るんです。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>と申しますのは、ここの今後どういうふうになったときに、そしてそれと対馬市教育支援センターに発足する前、要するに有志の方がしてあった、その実費もやっぱり人数が4名くらいですか。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>全て調べたわけじゃないですが、平成23年は、これ16年から、これは全国的にも対馬市でもすごい多いころなんで、平成27年になると9名、ですから、その後はそのくらいの数かなと思います。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>一応意見なんですけど、先ほど教育長がおっしゃった気持ちとか、あるいは家庭内のいろんな諸事情があつて、なかなか心を開くには、愛と、信頼、時間と回数がかかると思うんですけども、そんな中で、</p>

<p>吉野主幹 一宮委員</p>	<p>せっかくある教育支援センターを教育の機会を提供しようというような形で発足してきているなら、そこにやっぱり子どもをどういうふうな形でも連れてこなくちゃいけない。不登校って保護者の方の意識も変えないと、なかなか難しいところがあるんですよね。各学校を訪問している指導員は何名いらっしゃいますか。</p> <p>1名です。</p> <p>1名だね。お1人が元小学校の先生ですよね。その1名の方が各学校を訪問して困り感の児童生徒、保護者との対話をするということですか、それとも不登校というか、全然学校に行けていない、この43名のところに、それぞれの家庭に入っていかれるというふうに理解していますが、ここを教えてほしい。</p>
<p>吉野主幹</p>	<p>今後の対応と書いてあるのは、指導員さんと課長、支援課長がする中で、今後はいろんな学校にも通って情報提供といいますか、こんなことを教室でやっていますということのを学校に伝えるとともに、その学校の状況、元校長先生でもあられますので、こういう人が学校に行ってお話を聞けばまたいろいろ機会も出て来るかなと思いますので、そういうかかわりを今後していく。今、センター長ですけれども、適応指導教室の魅力って何かと考えたときに、建物でもないし、物でもないし、やっぱり人の魅力だと思うんです。子どもたちが行きたくなる、惹きつけるというのは、そういう意味で考えますと、前のフリースペースのころにかかわってくださった渡辺久美子先生という方が素晴らしい方で、人としての魅力にあふれておりました。</p> <p>今回の指導員の校長先生もマドラー心理学というのを学校経営に生かしながら、職員にも指導、実践でやられてきた先生で、大変、人としての魅力もあります。ただ、今指導員が1名なので、今後、この指導員とかかわる方が2名、3名という配置ができるようになれば、やっぱり合う合わないがあります。3名いればその中の誰かに行きたいなと思うようになるのか、何かそういう展開が今まだ始まったばかりですので、1名ですけれども、今後可能なようになっていけば、そういう方向でせん断していかなければいけないかなと感じたりしています。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>私も同感なんですけど、今は、校長先生が男性なんです。前の先生は女性、またその女性、男性の性差もあるんですよ。そういうふうな子どもたちが父性を感じたり、母性を感じたり、いろんな部分もあるし、語りかけの言葉一つにもいろいろあると思うので、もし今後のことにかかわるんですが、やっぱり指導員の先生がお1人というのは</p>

<p>吉野主幹</p> <p>一宮委員</p> <p>吉野主幹</p> <p>有江部長</p>	<p>非常に負担感もあることだし、学校とのパイプは経営者だからそこはできる、やっぱり、家庭の中にも入ったりしていらっしやるんですよ。その辺のことをまたしていかないと、せっかくここまで、今からスタートしようとしている教育支援センターとしてのみちしるべがどうなるのかなと思うので、できれば、人的なお1人でも2人でも、人的に乗り越えれば、またそこに先ほどおっしゃった人の魅力というか、そこに居場所ができて、そして来るためには保護者が、足がないといけないので、まずそういうところもなってくると思うんですけど、保護者というか親の意識も変えていかないと、なかなか難しいところがあるので、少しそういうところも市としての支援といいたいでしょうか、それがもし可能ならば、そういう視点を、教育支援センターみちしるべを今後どういうふうに変えていくかというふうな視点を少し持ちながら、人的配置とか、今意外だったのが上から1名、中から2名ほうが意外だったなと私も思いまして、そしたら、上に1つつくるとかということよりも、まずは、ここを心の居場所みたいな形で定着させて、それが波紋のように広がるような持っていく方というのも1つの策かなとは思っています。</p> <p>それと、指導員の方たちがいろいろされていますよね。これを、もしよかったら私たちにも披露とか、何かわかると、口コミでとかいろんなのでもできるかな、この内容をまだ私たち自身も教育委員としての把握ができていない部分もありますので、教えていただければと思います。</p> <p>ここで出している内容ですが、実際に今までこういう特技を持っている方がおられて、どんなことを今までやってきたかというのは、なかなか今のスタッフが考えていきますというのは無理です。</p> <p>現在登録している25名の方は把握しているんですね。</p> <p>はい。</p> <p>すみません、そしたら、ちょっと私のほうから、2点ほど、先ほど資料説明ございました登校児童生徒の推移ということで、平成23年がピークで、フリースペースみちしるべに通所される子どもも23年がピークでした。この事業は全国的に多い時期でという説明ですが、その後、24、25、26というふうに大幅に下がってきています。これは何か大きな力が働いているのかなという点と、もう1点は、まことにこういう発言をするのは失礼かなと思いますが、先ほど教育長のお話の中で、この原因がつかめないんですと。一般論で申しますと、原因がわからないとなかなか対策が立てにくいというのが</p>
---	---

<p>吉野主幹</p>	<p>話だろうと思うんです。それで、不登校の児童生徒というのは、小学校に就学してから、そういう傾向が出ているとか、そういう状況に落ち込むと。そういう子どもの生き立ちであるとか、何に原因があるのかとか、そういうところは、教育部門だけでなく、本当は市として全体で考えないといけないのかなと思うんですが、教育長、一宮先生、教室の経験長い方いらっしゃると思いますので、過去の経験からこういう部分に家庭であるとか、地域であるとか、問題があるんじゃないかという御意見があればお伺いできればと思います。</p> <p>全国は、まず、平成9年度に初めて10万人を超えた。これはニュースでも大きく取り上げられて、10万人を超えたと言われたのが平成9年でした。その後、平成13年が13万8,000人、一回ここでピークを迎えます。その後、全国で24年までに11万2,000円、一旦下がるんです。24年まで下がった後、全国が今度はずっと上がって行って、平成29年が14万4,000、全国的には一度下がって上がっているんですが、この辺は対馬市も少し似たところがあって、25年度に下がっているんですけど、ただこの下がったところ、全く私見になりますが、21年、22年あたりは、対馬市の教育委員会が不登校の問題として、不登校が、非常に各学校でも行ってきた問題であるということで、生徒指導支援研修会だとか、いろんな場を通じて、不登校の対策をしていきたいと思いますということで動き出したことだったんです。それから、小学校と中学校の連携を組むために、連携シートがありまして、学校の状況とかを書いて、中学校に渡す、いろんな手立てを講じた時期が24及び23年であって、その成果がある程度僕は現れたのかなと思っていますが、その取り組みでは、今度は賄いきれないというか、対応できない台風の子どもたちがいっぱい出てきて、今こういう状況で全く私的な分析でありますけどそう感じています。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>家庭に問題がある場合もちろんありますので、親自身の養育というか、友人関係で誰がこうしたとかコミュニケーション能力、実際コミュニケーション能力ってひとくくりに言いますが、それがなかなかうまくできなくて、人間関係が構築できずに、なったりとか、学校行ってこう言われたからどうだということ、そのような先ほど複合的との言葉が出ましたけど、そのようなことをあれして家から出ない生徒さんも、自分がいたところはそこが結構複合型と行って2、3個の原因が一緒になって来たけども、友人関係もなくてと思いますし、ちょっと今別の意味で仕事にかかわらせていただいて、すごくそういう面</p>

<p>比田勝市長</p>	<p>も逆に生徒さんも対応しているんですけど、友達関係をうまくつけない生徒さんが、すごく最近増えました。誰かが何かどういったかこういう、そういう生徒さんがすごく増えているという、だから、もうおもしろくなかったらいいかなと、きつかったらやらないとか、そういうふうな部分の体制といいましょうか、そういうふうなものもできていないし、それは、結局何かがあったときには親に言えば親がすぐそこからいろいろなとこに行くんです。その子どもの思いを、子どもの言い分を100%聞いて、そのことで大きく保護者が動くというふうなところもあります。</p> <p>今、先生のお話を聞いておっても、やはり子どもたちの態勢っちゅうのかな、わがママが余りにも度が過ぎているっちゅうか、親もそのわがママを許すことに余りになれ過ぎて、むしろその友達をつくる気がない、友達をつくるときっちゅうのは、自分のわがママだけじゃつくれないじゃないですか。やはり友達との融和というのが必要になってきますから、そういう点で行けば、先ほど吉野先生言われたように、むしろ、子どもというよりも少し親のほうの何か育て方というか、そういうところもちょっと原因が出てくるのかなと。心理学はわかりませんが、どうなのでしょう。</p>
<p>永留教育長</p>	<p>私は教師として中学生を相手にしてきましたけども、一宮先生が言う、非情につかみにくい、つかみ切れない、不登校になってしまったら、いろいろかなえたときにこの一番大きい原因はテレビじゃないかなと思うんです。小さいときの子育ては最近おかしくなっちゃった。おかしいのが当たり前になって、テレビから今ゲームになって、スマホになって、テレビというのは、子どもたちが表面を見た表面のおもしろさ、表面的なおもしろさを子どもたちはそれが当然と思って育った子どもは、そうじゃない場面に接したときには、反発になったり、無気力になったり、そういうのがずっと積み重なってくるからいろんなことが起こりよるんじゃないかなと。不登校にしても、教育上配慮を要する子どもにしても、どんどん増えていくんじゃないかなと思うんですけど。</p>
<p>一宮委員</p>	<p>自分の思うようにならないとぼきっと折れます。折れるし、やる気なくなるし、他人のせいにするしというところ。これは自分の子どもに我慢させないからです。我慢させ切らないからです。だから、もう子どもは自分の思うようになんでもなると思育ちます。そしたら、ならなくなったらぼきっと折れるか、やめるかどうするとかはすごく大きいのかなっていうのをちょっと思います。</p>

佐伯委員	<p>思うんですけど、実際にしばらく子どもが学校行かなくなった時期があったときに、今思えば、親の態勢ができ上がっていなかったなという、対面ばかり気になっていて、学校行かないといけん、そういうことで家でも居場所がなくなる。それで部屋に引きこもり、部屋から出てこない、そういう時期があってもいいじゃないというのを自分が知らなかったというのは後ですごく後悔したんです。だから、親同士のネットワークというか、この枠の仕組みがなかなか、対馬は特にあんまりないのかなという感じです。先生は言ってくれるんですよ。お父さん、お母さん、いいからもう大丈夫ですからねって言うけれども、やっぱり田舎というか、先々のことを考えてみたりと頭がぐるぐるしてしまって、そういったところもネットワーク化とか、親がそういう、不登校になったときに集まれる場所があったりとか、情報交換できたりとか、先輩じゃないですけど、定年した人が話せたりとか、家庭のほうも泣く場があるといいなとは、後からは感じます。</p>
永留教育長	<p>親の会がつくれれば、不登校の親の会、中対馬ではそういう部分が非常につくりにくい部分があるんだけど、親が教育支援センターに週1回でも集まって、自分の不安であるとか、悩みであるとかを打ち明けて、まず親が子どもの心の居場所をつくる心のゆとりを持てるというか、そしたら家庭の中で居場所ができれば、やっぱり子どもは家庭で安心すれば外に出れるというふうにも言いますので、そういう親子関係をつくれたらなと思ったりもするんです。</p>
比田勝市長	<p>今、対馬市の中でもあちこち子どもじゃなくて、痴呆症の方を介護する人たちの会があちこちできてきているんですよ。それで、やっぱり一堂に会して愚痴を言い合ったりすればある程度のすっきりするところがある。そしてまた、いろんな方の話を聞くといい、対処の仕方が変わってくる。そういうのが今うちの福祉の関係のほうからずっと回ってくるんですよ。これいいこと知れるなと思って、私も行っているんですけど、今教育長が言われるように、本質の議題が教育支援センターとの連携なので、まさにそういったところと、こういう3者の連携ですか。</p>
吉野委員	<p>今ならできるとは思いますけど、今の時代は、昔は世間体気にして、障害者とか、生活保護とか、世間体ばかり気にした人たちが多かったけども、これは大分オープンになってるから声かけ合えば、福祉や教育委員会なりが声かけて、何とかそういう会をつくって、これからのことを話し合おうよとか、もうちょっと熱心にすればできるとは思いますけど。自分たちだけでは、保護者だけでは動けないと思う。</p>

現在は4名の里親さんに委託をしておりますが、今年度いっぱい1名は辞退されるという話を聞いております。

留学生1名に対しましては、7万円の委託料として、実親が3万円、対馬市4万円ということで支給をしております。

一部の里親からは不足というような意見もいただいています。

留学生の招致実績でございますが、29年の9月に西区において里親さまが確保されまして、西部中学校に当時中学校1年生の男子の福岡県から1名受け入れております。現在、そのまま継続で西部中学校の3年生になっております。

それから、30年4月に西小学校に4年生の男子が福岡県から1名、この人は1年間で留学は終了して帰っておられます。

30年の4月、同じく西部中学校に1年生の男子を1名、継続で現在2年生でございます。福岡県からです。

それから、30年の9月に仁田中学校に2年生の男子1名、このときに同時に2名来たんですけども、1名がもともとは不登校傾向ということで、島に来ましても結局学校に通うことができませんで、契約を解除ということで計上しておりません。1名については現在も継続で3年生となっております。

それから、31年、ことしの4月に西小学校に3年生の女の子が1名、福岡県です。それから5年生の男子が1名、兵庫県から。6年生の男子が1名、同じく兵庫県です。それから、西部中学校に1年生男子2名、女子が1名、福岡県から男女各1名と、兵庫から1名、それから、仁田中学校に1年生の男子を1名福岡県から留学しております。現在10名入っております。

それから、課題でありますけども、里親を募集しておりますけども、なかなか応募がない状況です。

それから、事前に子どもの留学前の学校等の状況等に関する情報が不足しておりましたりして、学校に受け入れた場合に、学校が対応に苦慮する児童、生徒もいるようです。特別な配慮を要するようなケースも中には出てきております。

それから、事業が拡大していくことによりまして、里親や学校との連絡調整等が多くなってまいります。現在の職員数ではちょっと不足し、十分な体制がとりにくいです。

それから、今後の計画ですが、第2次対馬市総合計画におきまして、令和2年度、来年は15名、最低令和7年には30名を目標に設定をしております。里親の募集活動を強化し、受入地域を拡大していくと

	<p>ということで、8月7日にCATVに職員が出演しまして、里親の募集を行っております。</p> <p>それから、佐須奈、佐須等を中心にチラシ等の配布を行って、里親交渉ができればと考えています。</p> <p>留学申し込みに当たって、申請時点で通っている学校の子どもの状況等の問い合わせることができるように申請書等変更し、事前の状況を収集して、受け入れの適否を判断するようにしなければならないと考えております。</p> <p>ちなみに、里親さんにつきましては、三根地区に2名、仁田地区に2名ということになっております。</p> <p>以上、簡単に説明をさせていただきました。</p>
大塔係長	<p>ありがとうございます。それでは、意見交換に入りたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
吉野委員	<p>里親が増えれば、子どものいる中学、もっと増える可能性が高いんですか。問題は里親のほうなんですか。</p>
八島次長	<p>そうですね。今年も結構受け入れもしまして、特に今年30年の募集につきましては、問い合わせ等の多い状況で、今後も里親がある程度PRもさらに拡大していけるので、募集方法も増えていくと思っております。</p>
吉野委員	<p>それ去年の報告だよ。里親さん、川口さんが4人を里親として預かったんですよ。</p>
八島次長	<p>5人です。</p>
吉野委員	<p>5人。やっぱり里親の負担も大きいことはあるんだよね。里親さえ増えればもっと子どもは増えるのかなのかなと思うんだよね。</p>
八島次長	<p>そうですね。なかなか里親も大変な状況です。手のかからない子どもばかりだったらいいんですけど、なかなか不登校、先ほども出ましたけども、不登校というところで希望されて、特に29年の最初の子どもにつきましては、不登校だったという、それが解消されて、親御さんは大変喜んでおられるということですけども、同じように、不登校気味ということで、留学を希望されるところもあって、受け入れの学校についても、なかなか大変なところもあって、先生方にもいろいろ御迷惑をかけている部分も出ております。そういうようなところも状況をよく把握してから受け入れはやらないといけないなどの反省はしています。川口さんにおきましては、ちょっと今、家を借りておられまして、経費のこともあって、来年は志多留でしょうかなどの話も聞いていますので、西部中や西小に通っている子どもたちの受け入</p>

	<p>れ等も検討が必要な部分が出てくるかなとは思いますが。</p> <p>留学生に対する委託金だけでは厳しいんですかね。。</p> <p>なかなかちょっと厳しいですね。</p> <p>今、高校生の下宿代って幾らぐらいですか。</p> <p>留学生は7万。7万だったのが今プラス1万で8万になっております。保護者は4万です。</p> <p>高校生になれば、恐らく洗濯は自分でするでしょうけど、小学生、中学生になると洗濯からしてあげないといけないということであれば、7万は本当きついかなど。私も今思ったりもしているんです。</p> <p>基本的に中学生、小学生も含めて、自分で洗濯はしなさいという指導はしているんですけど、基本的に自分で着るものについては自分でさせるようにしておられると。</p> <p>この辞退される方のところは。</p> <p>中学3年生の仁田地区で、今の子どもが卒業したらこれで終わりにしますということだったので、気が変わらない限りはちょっと難しい。</p> <p>鹿児島県の三島村、あそこで民間に子どもが5,6人いたんですよ。離島留学生。寮母さんみたいにお世話してありましたけど、素晴らしいですけども。まだまだ募集の成果、出てきそうな気もせんでもない、どうなんですか。</p> <p>なかなか難しいですよ。</p> <p>民宿頼んだらお客さん、強いかね。</p> <p>今、結局民宿してあるところが2件確保してあります。峰の方と新しい仁田の方の民宿ではあるんですけど、峰の方も韓国の方が少なくなっているの。逆にもうちょっと増やしてもいいよと言われてます。</p> <p>民宿を活用できれば、里親さがしは大変だけど部屋には困らんよね。</p> <p>里親さんって親がわりじゃないですか、だから、学校行事や何かあるときはその里親さんが行かれるんですね。</p> <p>そうです。</p> <p>下宿、民宿とは違うんですね。</p> <p>そうですね。</p> <p>5人いる方はそれぞれの小学校でも中学校でも行ってあります。</p> <p>行ってあります。</p> <p>私は、すごく今この対馬市の学校現場みたいに、学校を預かる者と</p>
吉野委員	
八島次長	
比田勝市長	
一宮委員	
比田勝市長	
八島次長	
佐伯委員	
八島次長	
比田勝市長	
八島次長	
吉野委員	
八島次長	
吉野委員	
一宮委員	
八島次長	
一宮委員	
八島次長	
一宮委員	
八島次長	
一宮委員	

	<p>しては、対馬の子どもの先ほどの不登校の問題もあるんですよ。それともう一方、島外の子どもたちを留学させてきた預かり金が先ほどちょっと御説明にあったように、特別な配慮を要する生徒が出てきたりいろいろあるわけです。だから、それが今度の計画第2次対馬市総合計画で令和2年で15名、7点で30人ということになると、いろいろなそういうような特別な配慮を要する生徒さんもふえますよね。そのあたりが、学校原価格課題と対馬のそういうところ複式対象とか、あるいは活性化みたいなこととのバランスといいましょうか、捉え方とか、そこらあたりはどんなふうにお考えになっているのかをちょっとお尋ねしたいなと思います。</p> <p>ある程度子どもさんの状況によって、特別な支援が必要な子どもについてはなかなか受け入れるのは遠慮するべきだろうというところもありまして、特別支援学級を設置しなければならないような対象の子どもになると、基本的には拒否するべきだろうというふうなのがありますので、その辺を含めて、現在通っておった工事費そういう状況はどうなのかというところが問い合わせできるような体制つくっていかないと、来てからじゃ遅いということですので、なかなか事前情報として体験入学等も来て、2、3日でリタイアするんですけど、それで、実際はわからないとこで出てきますので、そこら辺ちょっと少し入学許可のハードルを上げていかざるを得ないのかなとは思いますが。</p> <p>基本的な法の趣旨としてはそういう子どもたちの受け入れの場ということではないので、そこは大事なことだというふうに思います。</p>
八島次長	<p>ある程度子どもさんの状況によって、特別な支援が必要な子どもについてはなかなか受け入れるのは遠慮するべきだろうというところもありまして、特別支援学級を設置しなければならないような対象の子どもになると、基本的には拒否するべきだろうというふうなのがありますので、その辺を含めて、現在通っておった工事費そういう状況はどうなのかというところが問い合わせできるような体制つくっていかないと、来てからじゃ遅いということですので、なかなか事前情報として体験入学等も来て、2、3日でリタイアするんですけど、それで、実際はわからないとこで出てきますので、そこら辺ちょっと少し入学許可のハードルを上げていかざるを得ないのかなとは思いますが。</p>
一宮委員	<p>現在10名の生徒さんが来ている目的というか、それぞれの。どんな思いで留学していらっしゃるんですか。</p>
八島次長	<p>やはり、体験入学とかに来られた方は、子どもが対馬を気に入って、自分から行きたいということのお話は聞いています。不登校気味なので、何とかならんかなという思いでやられているところもあります。特に子どもさんが友達関係でトラブルがあつてがあつて、2、3カ月不登校だとかいう状況もあつて、大丈夫かなというところもあつたんですが、受け入れて、そういうのはちょっと友達のトラブル云々だったので、問題なく学校には通えて、全くほかの子どもたちと変わらない様子ですし、不登校気味の子どもについても少し行ったり行かんかったり、そういうところがあつたみたいなんですけど、逆に西部中学校では、毎日元気に通っておるというところで、子どもたちにとっては環境が変わってよくなっている状況もあります。</p>

一宮委員	手をかけたり、配慮を要する生徒さんは10名の中には今のところいらっしやらない。
八島次長	1名問題というか、ほかの子どもさんに攻撃的といいますか、少し問題がある子がおりまして、学校から前通っておったところの学校に問い合わせると、やっぱりそういう状況というところで、通常の授業はなかなか受けれる状況ではなかったみたいで、そこら辺が来てからわかったということもあって、考えなきゃいけないということで、この1回親を呼びまして、そういう医療的などころが必用であれば当然医療を受けてもらわないといかんし、どうしても扱いのところで、何かと里親さんとも協議して、もう少し頑張ってみましょうかという話で今のところはおいてます。お母さんの顔見て1回落ち着いたところで、今のところは大丈夫みたいなどころではあるみたいです。
比田勝市長	私としては、やはり今複式学級あたりが解消をされるというメリットもありますし、市域の特に子どもが少なくなって、学校自体が少しずつ統合に進んでいるということを考えると、やりこの島っこ留学制度である程度子どもをふやしていくということは大変重要なことだなというふうに考えております。それで、大変だろうとは思いますが、そうやって皆さんも含めて教育委員会のほうも頑張してほしいという思いをもっています。
永留教育長	西小は、留学生のおかげで、複式が解消されました。 それでは、29年に初めてきた1年生は今3年生ですが、来たときは確かに体も小さかったけど、すごい頑張って、精神的にも肉体的にもかなりたくましくなって、親が物すごい喜んだ。結構本人たちにとっても周りにとってもいい面も結構出ているんじゃないかなと思うんですよ。思春期の一番難しい時期だから、親のもとを離れてこっちで生活するのは物すごく心配だし、難しい部分もあるんですけど、そこらあたり拝聴しながら、やっぱり取り組みを進めていったほうがいいなと私も思うんですよ。
佐伯委員	1人先生がいるとやっぱり印象とかも全然違ってくるでしょうから、生徒たちにもいい影響があると。 中学校あたりが1名増えれば複式が解消されるところが結構あります。
一宮委員	もし里親さんの委託料を上げるとしたら、実際親から1万円プラスで4万円ですね。対馬市はこれ以上出せないですよ。
八島次長	今の実績として高校の留学が8万円に上げた。
吉野委員	市が負担するだけでお大したもんですよ。

八島次長 比田勝市長	制度的には良い制度なんだろうと思います。 本当の親御さんにとっては、学費とはいつも悩む負担でしょうけども、生活費、今3万円であったら、本来ならまだまだかかるんでしょうけど
一宮委員 八島次長 比田勝市長 一宮委員	親御さんも7万もらうのと8万もらうのは、違うでしょう。 多いに越したことはないでしょう。 よその留学制度の実態を調べて。 私もちょっと高校生に聞くと、里山は全く旅行も行けないと、どこにも行けない、引き受けているんです。だから、中高生の上に通らなくては、夏休みとお正月とお盆、ちょっと夏季休業と、ちょっと入るでしょ。海辺に、それ以外はずっといるから、里親さんを引き受けるというのは。
大塔係長	それでは、もう時間になっておりますので、議題としては以上になりますが、もし、これだけは意見交換をしておきたいというのがもしあれば、いただけるとは思います、いかがでしょうか。
佐伯委員	今、対馬は本当に遺産や遺跡とか、さまざまな文化的なものとか、非常に多いという中で、文化財加算のほうも苦勞なさってあるんでしょうという話をすると、やっぱり今博物館の建設で人にとられ、実質1名、2名で回していると、その中でも本当に頑張っているって話を聞いて、もう1人くらい増えないですかねって課長さんに聞いたら、そこは、私の権限じゃないものですからって、非常に何か私たちも何か非常に求める部分も求めにくいとか、委員会の中でこうされたらいいんじゃないですかということも結局言えない状況なのかなというところで、なので、できれば博物館が推進している、そこに人を割かなければならないならば、1名、その分だけでも手当していただくなり、厳しいところはわかるんですけども、本当委員会側としても気持ちよく言える委員会に常にしていただけるとありがたいなと思います。
有江部長 比田勝市長	文化財に限らず、どこの部署もぎりぎりのところでやっておりますので、苦肉の策でそういう対応をとらせていただいております。個人的には、地方分権も進んでまいりましたし、非常に部門も多岐複雑化するばかりですので、職員が頑張れば良いということではもう片づけられない時代じゃないかなと思って、個人的にはもう職員ふやしたいなと思うんですが、こればかりは市長の決裁が要ります。 私のほうもふやしたいという気持ちはやまやまなんです。ただ、また今度別の場面では、行革関係で、職員を削減すべきじゃないかと

<p>吉野委員</p> <p>大塔係長</p> <p>有江部長</p> <p>川辺課長</p> <p>大塔係長</p>	<p>そういう話もまた出てきますし、そこら辺の調整がなかなか厳しいところで、今、総務部長が言うように、頭を悩ましながら、やっているんですけど、いかに効率よく仕事をやっていくか。</p> <p>要するに働き方改革とかいろいろ行政面でもありますが、ただ、対馬が特別というか、島は長いし、文化財は多いし、盆踊りがあるし、姫神がやっとう市の指定を受けましたけど、まだまだあのお船江跡や、盆踊りがいま国の文化財指定にきなさいというけど、要するに資料収集からは報告から、大変な事務量ですよ。</p> <p>一応、保存会立ち上げてというふうに今協力をお願いしている状況です。</p> <p>それでは、これを持ちまして第1回の総合教育会議を終了させていただきたいと思います。</p>
---	---